



福祉と住環境を考える

ふくてっく

2011年6月
第80号
特定非営利活動法人
ふくてっく

559-0034 大阪市住之江区南港北2-1-10 ATC・ITM棟 11F エジリスL
TEL 06-6614-6800
mail@fukutech.sakura.ne.jp http://fukutech.sakura.ne.jp/

青葉こもれびホール 活動報告

三月二十五日、ふくてっく十五名のメンバー参加によって、青葉こもれびホール改修の総仕上げに取り組んだ。濡れ縁製作には、木工部メンバー五名が担当して、長さ約二m幅約六〇cmの濡れ縁を組み立てた。材料は、宮崎建設の協力で、束以外はすでにプレカットされ、クリア塗装まで準備されていた。受注を取付ける際に下地位置を確認しにくく、ビス位置を変更する苦労があった。芝を剥ぎカラ練りのモルタルを敷いて、その上に束石と束柱を建てたが、束の高さを調整して水平を出すのにも、かなりの時間と技術・労力を要した。ほぼ七〇八割は、午前中に完成し、午後は防腐塗装を行うなどして完成度の高い仕上がりととなった。

トイレ回り手摺の取り付けは佐久川・後藤両会員が担当した。青葉園の場合は便器からの自立的起居は殆ど考



えられず、専ら排泄時の姿勢保持を目的とするものである。また使用後の清掃も職員が行うのでトイレレットペーパーの設置位置についても独特の配慮が必要であった。後藤会員は十六年前阪神大震災直後の同園ボランティア活動に参加した当時の記憶が走馬燈のように思い出されると、感無量に語る。カーテンは当日準備されているはずの材料の用意がなく、採寸と材料調達から始

めねばならなかった。これには清水、島村、山本、春岡の女性会員が尽力。在庫数など限られたなかで清水会員を中心に居室は明るく落ち着いた雰囲気、トイレは明るい感じのものを選択。サイズ合わせには畑会員の裁縫という珍しい風景も見られた。ブラインドや時計の取り付けには大塚会員が明るく奮戦。十六年前もそうだったが、筋書きなどなくとも自然と協力し合う、ふくてっくが蘇っていた。

昼食には、園からなんとビール付きのごちそうをご用意頂き、通園メンバーとともに、楽しいひとときを過ごせた。清水元園長とも久しぶりに懇談し、改めて障がい者福祉の活動現場を見つめ直すこともできた。最後には完成したホールで記念撮影。床暖房の施されたホールは、とても居心地がよくて、利用者の皆さんにはとても喜ばれたことがうれしい。

青葉園からは続けて、本園の処置台製作、キヤスター付テーブルの補修、そしてこもれびホールへの木製棚の製作を依頼されており、木工部と畑田会員が対応することになっている。

現在、日本財団の助成金交付手続きの一環で、建物登記関係の手続きに協力している。それには、元来のリース契約者であるN社からの権利放棄に関する上申書を書かせる必要があるが、既に契



青葉園の仲間たち集合 上左：木工部ただ今濡れ縁製作中 上左下：畑会員カーテン裾上げ健闘中 上右：美女軍団(?)採寸中

約関係書類は同社にもなく、当時の担当者も一人として在籍していない。もっか、同社社長室と協議を進めているが、いろいろ経験させて頂き、面白い。

青葉こもれびホール

青葉こもれびホールとは、西宮市染殿町八番一七号に所在する、重症心身障がい者通所施設青葉園に附属する建物です。一九九五年一月に発生した阪神淡路大震災の際に建設された障がい者世帯が暮らせる仮設ハウスとして建てられました。

その建設に、ふくてっくをあげて協力しました。この度日本財団の支援を得てこれを再利用できるように整備を一新しました。やはりその仕上げに、ふくてっくが活躍しています。

今後は青葉園の別館として、障がい者の日中活動の場として、また地域の集いの場として活用されます。ハウスの廻りには桜などの樹木が大きく育ち、心地よい木陰を創っています。ハウスの名称はそれに由来するものです。

(中北 清)

木工教室



無料です



大震災と 二〇一一年の 大阪市子どもカーニバル

毎年大阪城公園太陽の広場で行われている「大阪市子どもカーニバル」。ことしは四月二十四日(日)に予定されていました。三月十一日に東日本大震災が発生しましたが、「子どもカーニバル」は西日本での行事でありまったく影響は考えておりませんでした。

ところが、東京に住む息子から、水・カップ麺・懐中電灯・電池を送ってほしいとの電話。そうこうしているうちに私の地区でも毎年開催されている、子どもたちによる勇ましい春一番



の桶公祭りの、行列の沿道での祭りを知らせるたくさんのノボリがいつのまにか取り外されているではありませんか！今回の大震災により市としての取りやめが決定したようでした。市民はこの南北朝時代を模した武者行列の祭りを楽しみにしており、またこれに応募し参加できる喜びを今か今かと待ちわびた家族にとっては大変さびしい思いであったことでしょう。

しかし誰もが暗黙のうち

大阪市子どもカーニバルも「中止」という二文字が私の頭の中をよぎりました。さっそく窓口に連絡確認しますと開催日まで一ヶ月もないのに「正式に決定通知が来ておりませんのでもうしばらくお待ちください」とのことでした。それからもう日は過ぎ、十日ぐらい前にもう一度確認しますと今度は「窓口の担当者が現在東北にボランティア応援にいらっしゃるので週明けには必ず連絡します」との内容でした。

週が明け開催日の二十四日を前にした十九日(火)に担当者から「実施します」との連絡があり一瞬ホッと、落ち着いたような気持ちになれました。「わかりました、ふくてっくは参加します」と確認をとりました。窓口の方の気持ちはもともと大変だったのでしょうか。それほど今回の震災は大きいものだったのだと改めて感じましたし、実際大変なことになってしまいました。

開催日の四月二十四日は晴天、前日の二十三日が大



であつたと思います。

毎年参加されている各地区、他の関連業者さんも元気に参加されておられ、ボランティアを当然のようにされている人々の心に感服しました。やはり世の中には子どもたちが楽しく遊べる機会には必要で、ひとつで



福祉用具部会

「車いすマップ」

NHK BS2の「地球ドキュメント ミッション」という番組で取り上げられた「wheelmap」を福祉用具部活動に取り上げました。ドイツのNPO「ゾチアルヘルデン」が取り組んでいる「車いすマップ」プロジェクト。

車いすで出かける人のために、町中の段差やエレベーターの有無、横断歩道の渡りやすさなどを、既存のインターネットの地図サイトを利

も多くつくってあげるべきだと感じました。「ふくてっく」の多くの皆さん方にも応援にきていただき、恒例の子どもたちによる「自由木工」を実施し、本当に楽しい一日になったと心より感謝いたしております。さらには大きな機械類や材料を搬入搬出していただきました関係者にも御礼申し上げます。(西川朋生)



用して誰でも書き込み・閲覧できる仕組みです。人々に気軽に参加してもらうため、ネットの地図上のポイントに「緑(良い)」「オレンジ(二部可)」「赤(不可)」の3段階の評価ボタンをクリックするだけ。気付いたその場で簡単に評価アップできるものです。

「車いすマップ」に、なかなか一般の人たちから評価が集まらず、多くの人々の参加を促すことが必要となつてきます。情報を集めて勉強していきます。(古馬道夫)

住環境研究部会

1961年、ジョン・F・ケネディの大統領就任演説の一部です。

Ask not what your country can do for you, ask what you can do for your country.

(国家があなたに何ができるのではなく、あなたが国家のために何ができるかを問おう)

右記の「国家を「ふくてつく」、「社会」に置き換えれば、何かできるのではないかと思う昨今です。政府や行政のやることなすことと批判ばかりしていても社会はよくなりません。藤原正彦氏の「国家の品格」という本の最終ページにこう書かれています。昭和初期、フランス駐日大使が「日本人は貧しいが、ものすごく高貴だ。世界で滅びてほしくない民族。それは日本人だ」と帰国して語った。東日本大震災においても、秩序ある行動、助け合いの精神は海外からも絶賛されるほどのすばらしい民族ですが、弱点の一つは何でもかんでも「お上」にゆだねるこ

とだと思えます。自分達自らの力で社会を変えるという思いが弱いところがありま

す。だから、先進国の中でも一度も革命が起らなかったのです。明治維新はただ体制が変わっただけのことです。

今、日本国の借金は八百八十三兆、一年間の税収の約二十倍、年金を含む社会保障費は毎年約一兆円以上ずつ増え続けています。生活保護費の増大、介護崩壊、無縁社会、大震災による経済力弱体化・・・

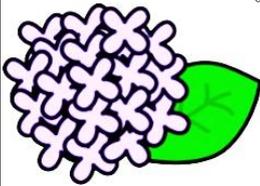
日本はまさに存亡の危機にあるかも知れません。物質的には貧しくなっても真の豊かさを築くために必要なものは、我々の「自主的活動」です。

「為せばなる、為さねばならぬ何事も・・・」。これは江戸時代、米沢藩(今の山形県)の経済破綻を救った上杉鷹山の言葉です。彼はケネディ元大統領が最も尊敬した日本人です。

NPOふくてつくを通じて住環境研究部を通じて、どんな小さなことでも、まわりの人達、大げさに言えば社会のためになることが出来れば、と考えます。

「人のために役立つ」。これは人間の究極の欲求「自己実現の達成」であると信じます。

(畑 俊治)



東大阪部会 平成22年度研修会を終えて

今年も東大阪市より、2月に東大阪市介護保険住宅改修に関わる業者向けの研修会と3月に東大阪市高齢者・重度身体障害者住宅改修費助成に関わる業者向けの研修会の講師を依頼され、二つの研修会ともに無事に務める事ができました。

『東大阪市高齢者・重度身体障害者住宅改修費助成事業研修会』

本制度の研修会を平成23年3月16日(水)に東大阪市役所18階大会議室で行い75業者76名の参加がありました。

今回は二部構成で望み、一部は清水会員が担当し、東大阪で同じく適正化検証事業をしている介護保険住宅改修と本制度の違いを中心に、対象となる工事内容の違い、申請書類や理由書に関する部分まで細かく説明しました。これは、両制度を利用に関わる業者が多い事や、最近の大阪府下市町村の改修費助成を取巻く環境の変化から、東大阪市への新規業者の参入も多く、東大阪市の取組、考え方の説明も兼ねた形としたいこちらの思惑がありました。

二部は小川会員が担当し、改修助成で対象になる工事範囲の曖昧な所を説明しました。東大阪市内では制度説明の為の「しおり」と、これまでの検証実績からこの制度に関する「Q&A集」とも配布しています。そんな中から年間を通じて理解にくい違いがあるものや、一部事前のアンケートによる質問に答える形で図を交え説明しました。どちらも、参加業者のみならず、検証に当たる私達にとっても再認識される内容となり、有意義な研修会ではなかったかと思えます。

今後、その年度を通じて全体を振り返った時に何が一番の不具合だったか、どうすれば業者の申請業務、対象者の安全な改修工事が行なえるかを考えて研修会に取組んでいきたいと思えます。

(小川 忠雄)

『東大阪市介護保険住宅改修研修会』

本制度修研修会が平成23年2月9日(水)18時半より、東大阪市役所18階大会議室において開催され、66名68業者の参加がありました。東大阪部会では、東大阪市高齢者・重度身体障害者住宅改修費助成制度の適正検証活動を平成18年度から、介護保険による住宅改修の適正検証活動を平成20年から行ってまいりました。

これらの適正検証活動では、特に「住宅改修の質の向上」を目標にしています。高齢者や障害をお持ちの方が、住み慣れた地域において、自立した生活が継続でき、生活が改善し、より良い生活が送れるよう心がけて、検証活動を行っております。今回の介護保険住宅改修研修会では、主に施工業者を対象に、制度を利用する上で誤解していることや気を付けてほしいことを、7つにまとめて説明をおこないました。

1. リフォーム工事(一般の住宅改修工事)とバリアフリー工事(高齢者や障害をお持ちの方の住宅改修工事)との違い。
2. 改修計画から図面化する前に必要な動作確認の重要性。
3. 理由書を記入する人、主に介護支援専門員が、バリアフリー工事では、キーパーソンになっていること。
4. 介護支援専門員と施工担当者の連携やコミュニケーションの重要性。
5. 本制度は、高齢者や障害をお持ちの方の最低限必要なバリアフリー工事であること。
6. 理由書と計画図面に整合性があること。
7. 計画図面と見積書の表現内容を充実させること。

以上を短時間ではありましたが、理解して頂けるように話をしました。市と検証を行う我々と工事を行う施工業者が対峙するのではなく、一緒になって住宅改修の質の向上を目指し、また、適切な制度の利用によって継続した支援がおこなえることを願い活動しています。

(川北 武志)



「福祉サービス就労環境の現状と課題」

二三年五月七日 学習会

特定社会保険労務士・中小企業診断士 中村 範久

私がかつて専従したNPO
 ○中部は大阪青い芝の会に由来する障がい者解放運動の老舗的存在であり、今も障大連（障がい者の自立と完全参加を目指す大阪連絡会議）の中核を務め、またDPI日本会議事務局長として活躍する尾上浩二氏も中部の出身である。NPO中部は、障がい当事者が中心の組織であり、私はそこを起点として、その後社労士に転身したこともあって、現在も障がい者支援団体との接点が多く、本日の標題に日常的に直面している。さて本日は、

一、（財）介護労働安全センターが平成二一年度に行った介護労働実態調査に基づいて介護関連事業所の就労環境の現状

二、介護関連事業所の労務トラブルと労働基準監督署が行う是正勧告等

三、介護事業所に求められる人材マネジメントとは？と、話を進めて行きたい。



一、訪問介護員の年間採用率・離職率はそれぞれ二五・二％、一七・〇％であり、これは全産業平均の

一五・五％、一六・四％にしてやや高いが思うほどの差ではない。因みに飲食業では三三・二％、三二・一％である。従業員の充足については、「適当」の回答が前年の三六・五％から五二・三％と改善している。職員教育・研修については「教育・研修計画を立てている」が五〇・四％と高く、その内容は（一位）介護技術・知識（二位）安全対策（三位）接遇マナーをあげる。運営上の問題点として（一位）今の介護報酬では十分な賃金が払えない（二位）良質な人材確保が難しいと、給与や人材面の課題が上位を占める。これへの対応では（一位）基本給の引き上げ（二位）諸手当の引き上げと、賃金水準改定を第一とし、次いで（三位）教育研修の充実に取り組んでいる。職員の平均年齢は四四・

六才（訪問介護員五〇・五才、介護職員四一・三才）と高く、その賃金は所定内賃金（残業や深夜手当等を除く月額額面）の平均で二万二千四百三三円と低い。以上は事業所に対するアンケート結果であるが、この調査の長所は、就業者に対する調査も行っていることだ。それによれば、現在の仕事を選んだ理由として（一位）五八・二％「働きたいのある仕事と思った」（二位）三六・二％「今後もしも二歳が高まる仕事」（三位）三五・七％「人や社会の役に立ちたい」（四位）三〇・八％「資格や技能を活かせる」等のように賃金水準を上位に掲げていないことが注目される。また、現在の仕事への満足度については（一位）五三・九％「仕事の内容・やりがい」（二位）四六・一％「職場の人間関係」があげられている。このように、給与待遇では得られない満足度が評価されている一方、働く上での悩み、不安、不満については（一位）五〇・二％「仕事のわりに賃金が低い」と厳しい現実も示されている。入職者の実に六〇・〇％は

前職が介護サービスではなく、現在の法人に就職した理由には（一位）四六・四％「働きたいのある仕事だと思った」の回答に就業者の期待が伺える。しかし、その思いが強ければ強いほど、期待に反した時の失望も大きく、直前の介護の仕事を辞めた理由は（一位）二五・七％「法人や施設の理念、運営に不満」（二位）二三・八％「人間関係がまずくなつた」を上位にあげ、（三位）一九・六％「収入が少ない」は比較的に少ない。

二、労務トラブルの防止については、最初に労働条件を明示することが肝要であるが、多くの事業所ではおろそかにされている。厳しいことばかりでもよくないが、大事なことは後でも確認することだ。次に労働時間の管理が今後の重要課題となる。概して介護の現場では「待ち時間」と「休憩時間」の区別がつきにくい等、解釈に不透明なところが多く、また業務の性格上、休日や休暇の消化が不徹底となりやすい。就業規則の設定が義務づけられない従業者が一〇人未満の職場でも、三六協定で定めるべき超過勤務時間の遵守がないがしるになっている。これらは、一般に考えられている以上に重い法違反にあたるのであり、労働基準

三、以上は、労務管理における厳しい課題を述べてきたのであるが、正しい人事管理とは、職員の「やる気」「スキル」そして「業績」をアップして、それが法人全体の能力アップとなり、いい人材がドンドン採用できて確実に定着し、さらに生き生きと伸びて行けるような環境（働く舞台）を創るポジティブなものではない。法人も職員

監督署には違反者の書類送検や場合によっては逮捕の権限があることを留意すべきだ。ただ多くのケースでは労使の合意によって刑事事件への発展には至っていない、すなわち「お金で解決」できるのであるが、過度の時間外労働等に起因する過労死認定の問題がある。そうなるともはや話し合いで解決できる域を超えて、刑事事件となるのだが、平成一三年に厳しい「新過労死基準」に改定されている。健康診断についても、深夜業は「有害業務」と認定され、六ヶ月ごとの実施が義務づけられていることに注意を要する。

最後に、職場におけるコミュニケーションと情報共有を図ることが大事であることを付け加えたい。介護の現場では全職員が会することは難しく、短時間・小規模多頻度のミーティングを重ねることになるが、そこに様々な創意工夫が必要であろう。例えば、お茶とキーキを出す職場会、年初の職場大会などの多様な設定。イベント企画。ポスター、標語の掲示等々である。リフレッシュ休暇、永年勤続表彰など、個人にスポットを当てることが効果がある。法人内コンテストのようなゲーム感覚も大事だ。（記録 中北 清）

も元気になる、その中核となるものが「評価制度」である。介護事業も既に並の中小企業と同程度あるいはそれ以上の規模であることは珍しくなく、事業展開を構成員の「思い」に依存しているだけではそのようなポジティブなサイクルは望めない。ただ一般的な製造業等とは異なり、介護事業所の場合は人事評価の面でもまず一番に、法人理念・ミッションとの整合性が問われる。ついでキャリアアップの仕組みづくり、そしてこれと呼応する形で、職員等級に応じたきめ細かな教育指針を構築してこれらが評価基準とリンクすることが肝要である。



会員 コラム

風に吹かれ

—期待される
「ふくてっくの
これから」の活動—

杉浦 史郎

沈丁花が咲き出した。周りに甘い独特の薫りを漂わしている。まさしく春の到来を感じさせる。

私は毎朝、近くの公園まで散歩に行くのを日課としているが、今年の春は、雨が少なく毎日、燦々と降りそそぐ太陽をあびて小鳥の声や野の草花等を見ながらマヒした左足をひきずりながら歩いている。歩いていると、色んなことが頭に浮かんで来る。特に最近、中北氏が提言された「ふくてっくのこれから」である。どうしたら良いのか？な

なか良い考えが浮かんでこない。(アイデアを考え出す前頭葉が脳梗塞でイカレタのかもしれない。)

今がチャンスだと思ふ。国も「新しい公共」を打ち出し、都会では崩壊してしまつた「地域コミュニティ」を再構築するためには国や行政の力ではどうしようもなくなっている。そこで、市民、NPO、企業、大学等々の力を借りて、毎日のように起きている社会問題(児童虐待、孤独死、育児問題等々)の解決をはかるうとしてしている。会員の知恵を集めて、「ふくてっくのこれから」について、考えれば、かならず活動の指針や具体的な活動内容が出てくると思ふ。ただ、「ふくてっく」は地域のニーズに合ったサービスを直接提供するのではなく、それをどのようなしくみで行うのかを提案したり、組織と組織の間に入って活動するいわゆる「触媒」の役目で、中北氏いわく、「風の人」なのである。いずれにせよ「ふくてっく」の活動が地域社会に心地良い新しい風を吹かせるのを期待する。



長生きの秘訣

有馬 定夫

孫の一人が小学校3年生になった昨年5月の連休頃から不登校となり、2学期になって沖縄の小学校に転校し立ち直ることが出来ました。今では学校の先生や友達のおかげで、元気に勉強や体育に励んでいます。次男夫婦から子どもの成長をみにきてほしいと要望があり、私達夫婦で沖縄に3月末頃に行ってきました。

孫が立ち直った小学校を見学し、お世話になった担任の先生にお会い出来、お礼を申し上げたら先生は「ここは

あの日のお客様との会話

2

秋岡 安

客：東日本大震災の被災地で救援活動を行っているNPO法人へ義援金を送つたら、僕の税金はどうなるの？

私：相手先が認定NPO法人であり、かつその義援金による活動が相手先の本来事業に関連するものであったら寄付金控除が受けられます。確定申告すれば税金が戻ってきますよ。相手先が認定を受けていない一般のNPO法人だと寄付金控除の対象にはなりません。

客：他に寄付金控除の対象になる義援金は？

私：「特定寄付金」に該当すれば対象になります。①国又は地方公共団体②日本赤十字社等

客：住民税はどうなるの？

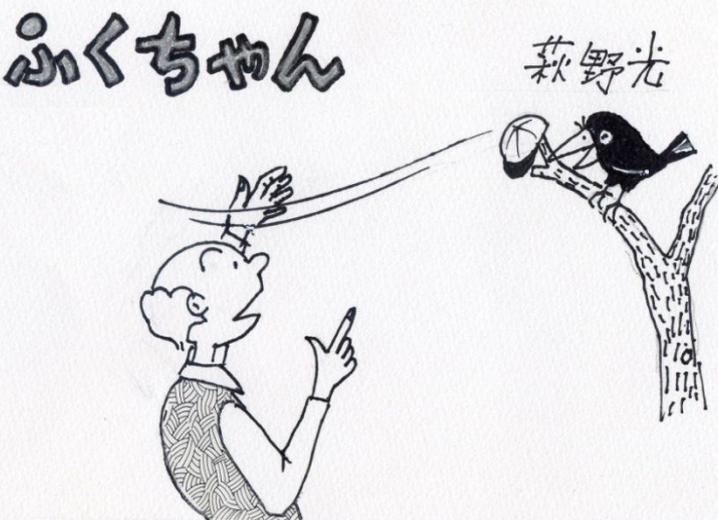
私：「特定寄付金」であればふるさと納税(ふるさと寄付金)の対象になりますので、住民税も安くなります。

客：じゃあ自己負担をいくらにするかも考えて金額を決めたらいいね。

私：そうですね。それと来年の確定申告で必要ですから領収書等なくさないで下さいね。復興には時間がかかりますので、今年だけでなく長年やりましょうよ。

沖縄の軽井沢ですよ、緑も多し、四季の花々が咲き美しいです。いつでもここに遊びに来てください。」と笑いながら言われました。孫がこの様な人達のおかげで立ち直ることが出来たと思うと、人間は他人によって生かされているものだをつくづく考えさせられました。これからは、弱

い人の中で仲間を信じ、弱い人の為に何が出来るか永遠のテーマとして追及していきたい。これが私の長生きの秘訣かも知れません。



■ H23年2月以降 学習会

2月「間違いだらけのバリアフリー改修」
「大阪府下43市町村
バリアフリー施策調査報告」
講師：山本尚子 建築家

3月「高齢者住宅の種類と選び方」
講師：米沢なな子
高齢者住宅情報センター生活相談室室長

4月「東日本大震災の現実」
講師：永井美佳
大阪ボランティア協会

5月「福祉サービスの就労環境の
現状と課題」
講師：中村範久
中村総合経営事務所所長

6月「50～60代これからの生き方
「い」「ろ」「は」～」
講師：御宮知常喜
(医)郁慈会 服部記念病院
リハビリテーション科主任

■ H23年定例会・学習会予定

7月2日(土) 13:30～17:00頃
会場：大阪市立社会福祉センター
・学習会
「ロジックモデル」の活用

8月6日(土) 13:30～17:00頃
会場：大阪市立社会福祉センター(予定)
・総会

9月3日(土) 13:30～17:00頃
会場：大阪市立社会福祉センター(予定)
・学習会
「平等院鳳凰堂CGによる再現」

ことば・コトバ

【 住み開き 】～新ご近所づきあい～

自宅の一部を近隣の人たちに開放すること。
自分が楽しむための空間を公開するのであり、新しい生活スタイルとして広がっています。子育てサロン・文化教室・カフェ・ギャラリー等、さまざまなアイデアを盛り込んだものがあります。人間関係が希薄になったと言われてはいますが、「自分の場所を近所の人にちょっと開く」といった新しいコミュニケーションが生まれています。

(和泉秀子)

◆ 外部連携報告 ◆

【有償ボランティア団体連絡会】

四月二十日 連絡会
九団体参加震災関係報告、言葉のギャップ、現地でのコーディネート不足等問題有り。新年度活動予定と役員体制を決める。

【大阪NPOセンター総会】

三月十八日
「新しい公共」の概念説明

【リサイクルと障がい者
就労支援の企画】

食品トレー等のリサイクル事業、関西スーパー神戸市北区と堺市店舗から開始

【青葉こもれびホールの近況】

五月二日 棚製作完了。
六月九日 砂川恵理歌コンサート

【福祉サービス第三者評価】

評価機関連絡会をNPO法人化に尽力する。ふくてっくは評価しない機関として客観的立場で継続していく。第三者評価の枠にとらわれず活動する。

：医療・福祉サービス機能保全コンサルティング事業。

【四月十三日連絡会】

連絡会の目的、活動体制などを協議

『四月二十五日幹事機関会議』
評価機関連絡会設置運営規定(案)をまとめる。

中北は評価機関連絡会代表幹事および推進委員会委員就任を受諾。その任に就くためにふくてっくは評価機関登録を更新します。

…事務局より…

★リーフレットが新しくなりした。ホームページにも掲載していますが、必要な方は事務局にお知らせ下さい。

★二十三年度より会計処理を「NPO法人会計基準」に沿って行います。会計報告書が大きく変わりますが、ふくてっくの信頼性がより高まることを目指します。

★東日本大震災義援金を送りました。
・「ゆめ風基金」
ふくてっく会員有志より
・「中央共同募金会」
ふくてっく青葉園活動
有志より

NPO 法人ふくてっくとは・・・

ふくてっくには、建築・医療・福祉分野の有資格その他、多岐に亘る専門職が参加しており、お互いの専門領域における見識と誇りを大切にしつつ、相互の研鑽しあう機会を育てています。キーワードは「生活者の視点、当たり前の感覚です。」是非あなたも仲間に入って、自らの人生を耕しませんか。一度、定例会(原則：毎月第1土曜日、13:30～)にご参加ください。定例会では、会員の活動報告や講師を招いての学習会等を行っています。正会員以外の方が定例会に参加される場合は、参加費500円です。

*会費：入会金/無料

：年会費/正会員 10,000円、学生会員 3,000円、通信会員 500円

*連絡先：TEL 06-6614-6800

ホームページ <http://fukutech.sakura.ne.jp/>

メールアドレス mail@fukutech.sakura.ne.jp

ふくしとは
くらしを守る
てくにつく
つよーいみかたの
くろーと仲間